

第3回 長野県教員研修体系作成会議 次第

日 時 平成25年9月4日(水)

午前9時30分～12時

場 所 県庁8階 教育委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 長野県教員研修体系(原案)の検討

- ・長野県教育の理念と教員のミッションについて
- ・長野県の教員に求められる資質能力とこれからの教員研修の在り方について
- ・ライフステージに応じた教員研修について
- ・教員研修における連携・協働について
- ・「学び続ける教員」を支援する研修履歴について
- ・教員研修の評価及び長野県教員研修体系の評価について

(2) その他

4 閉 会

「長野県教員研修体系作成会議」委員名簿

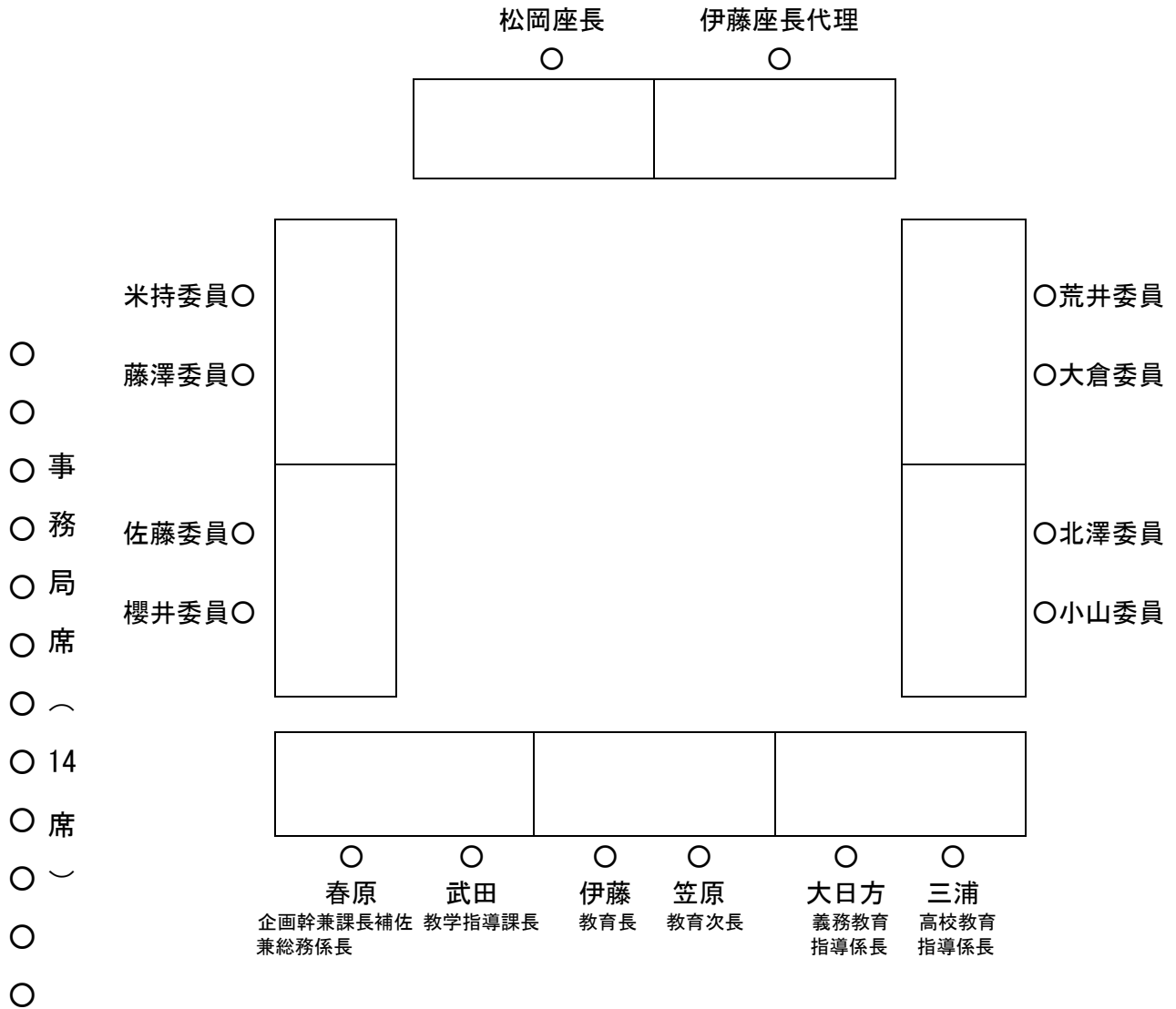
(敬称略)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
まつおか えいこ 松岡 英子	信州大学教育学部教授	座長
いとう かおる 伊藤かおる	株式会社コミュニケーションズ・アイ代表取締役社長	座長代理
あらい えいじろう 荒井英治郎	信州大学全学教育機構准教授	
おおくら よしろう 大倉 嘉郎	公益社団法人信濃教育会研究調査部長	
きたざわ よしたか 北澤 嘉孝	小海町北相木村南相木村組合立小海中学校長	
こやま としかず 小山 壽一	上田市教育委員会教育長	
さくらい たつお 櫻井 達雄	長野県長野西高等学校長	
さとう ひろみ 佐藤 洋美	主婦	
ふじさわ れいこ 藤澤 令子	一般社団法人長野県経営者協会教育研修部課長	
よねもち きぬこ 米持 絹子	長野県松本ろう学校長	

※任期は、委嘱の日から平成 26 年 3 月 31 日まで

第3回 長野県教員研修体系作成会議 座席表

県庁8階 教育委員会室



報道カメラ



入口

第2回長野県教員研修体系作成会議の記録（議事の概要）

日時：平成25年7月22日（月）午前9時30分～12時

場所：県庁8階 教育委員会室

1 「長野県教育の理念と教員のミッション及び教員に求められる資質能力」（案）について

（1）長野県教育の理念（案）について

- すっきりまとまっている。長野県の教育を表現することができている。
- 平成23年度に文部科学省から出された「地域とともにある学校づくり」が定着してきている。
「地域と共に歩む学校」を提案すると、新たな意味付けをする必要があるのではないかと。
→・本県では、文部科学省から提案される以前から、学校と地域とのかかわりを大切にしてきた。文部科学省の提案しているコミュニティスクールや学校関係者評価のみにとどまらずに、地域との関係を大切にするという意味で使用すればよいのではないかと。
・「ある」よりも「歩む」の方が、フレッシュで、一歩先を進む意味でインパクトがある。
- 「めざす子ども像」に、「自己肯定感を味わう」や「自己実現を図る」等が入ってくるとよい。

（2）教員のミッションについて

- 「教育は、教員と子どもの人格の触れ合いによってなされるものである。」という表現があるが、教育は地域とのかかわりや、子ども同士によってもなされる。限定し過ぎていないかと。
- 教育は「教員の主体的創造的な営み」と言われる。こうしなければいけないという表現でなく、教員一人ひとりの主体的な取組を大切にしたい。
- 林芋村先生の句の解説文があると分かりやすい。

（3）教員に求められる資質能力について

- 目標とするものに「高い」「確かな」「高度」等の主観的な言葉を使用するのは適切か。
→教員の不幸事を機に設置された「あり方検討会議」の提言から本会議は設定されており、「倫理観」や「使命感」等の意味を強めるために付けていきたい。
- 「人権意識」「共感力」といった表現は適切か。
→「人権感覚」よりも、確かな意識という表現で「人権意識」を使用した。
「共感力」は「長野県行政・財政改革方針」内にあり、「同じ思い、同じ目線で物事を考える」という意味で使用した。
- 「思いや悲しみ」という表現があるが、「喜びや悲しみ」ではないかと。
→あり方検討会議では、非違行為を起こした教員の、子どもや保護者等の痛みや悲しみを感じ取ることができなかったことが問題として出された。この反省を忘れてしまわないための表現である。

2 キャリアアップ研修について

- ・教員としての折り返し地点である40代に行くことが重要。
- ・求められる資質能力と研修との関係を明確にして位置付けたい。
- ・学校長が個々の教員に応じた研修を位置付けていくような方法は取り入れられないかと。
- ・免許状更新講習と合わせて設定し、研修を精選して行いたい。
- ・40代の教員の研修は個人差が大きい。研修を精選していくためにも、研修履歴が必要。
- ・校内での研修を充実させることも大切。

長野県教育の理念と教員のミッション及び教員に求められる資質能力
市町村教育委員会からの主な意見・要望

1 全体

(1) 「教員」について

- ・「教員」だけでなく、学校に勤務する全ての「教職員」としたい。

(2) 「教員のミッション」について

- ・敢えて「ミッション」という言葉を使用する意味は何か。
- ・「ミッション」について注釈を付けるのなら、最初から「使命や任務」でよいのではないか。

(3) その他

- ・学習指導要領で示されている「生きる力」を入れることが必要ではないか。

2 長野県教育の理念

(1) 「内なる力を引き出す」について

- ・「内なる力」とは何かの説明がない。保護者や地域住民等の誰もが分かる表現が重要。
- ・「内なる力」には、よい力もあれば悪い力もあると思われる。「内なる力」を「内なるよき」に変えたらどうか。
- ・「引き出す」という表現が、教員の強い指導によって児童生徒の力を「引き出す」と受け止められないか。
- ・説明文の中にある「一人ひとりが輝く教育」を用いて、「子どもの内なる力が輝く教育」としたらどうか。

(2) その他

- ・〈めぐす人間像〉の中で、子どもの「感性」について言及してほしい。教育課題の克服のために必要な力と考えている。
- ・学校や教員は、保護者や地域からの信頼が必要。「信頼」という言葉を加えてはどうか。
- ・「地域と共に歩む」を一步進めて、「地域と共に創造する」という表現も考えられる。

3 教員のミッション

(1) 「守り」について

- ・ミッションの冒頭にある「守り 育み 伸ばす」について、「子どもの命と安全を～」の表記がなくなったとき、「守り」という表現が、やや保守的、消極的なイメージを与えてしまわないか懸念される。
- ・「守り」がわかりにくいので、「命を守り、育み、伸ばす」と、「命」を付けてはどうか。

(2) 「学び続ける」について

- ・教員同士が学び合うことが重要。「専門性を磨き合い、～互いに学び続けていく必要がある」としたらどうか。
- ・教員は自ら学ぶことが大切。「自ら」の言葉が入らないか。

(3) 「深雪せる～」の句について

- ・林芋村先生の句は、どれほどの県民が承知しているのか疑問である。結びの部分にこの句を引用することは賛成であり、「守り 育み 伸ばす」に通じるものがある。ただ「学び続ける」は包含しにくいのではないか。
- ・信州の教育者にとって不易な、重みを持った心そのものであるが、特に若い世代の教員にとって心に食い込むものとなるであろうか。背景にある生活や社会、価値観が大きく変わっていて、ギャップを感じる。
- ・林先生は求めるべき教師像のお一人であるが、教員の使命を特定の個人の姿に関連づけることは適切でないと考える。

(4) その他

- ・人間力を高める観点から、「専門性」の言葉の他に、「人格」を入れたらどうか。
- ・子どもたちが夢を抱き、広がる夢にそれぞれの可能性を見出そうとした時、教師は子どもたちの可能性を「広げて」あげたい。「伸ばす」とあるが、「広げる」ではどうか。
- ・説明文の1行目「学校管理下において」は、学校管理外は任務の範囲外という消極的な意味が読みとれる。この表現を削除してもよいのではないか。

4 教員に求められる資質能力

(1) 「同僚性」という言葉について

- ・近年の対応で大切に考えられてきた「同僚性」という言葉を入れることはできないか。
- ・②の「同じ目的に向かってチームで対応する力」を、「互いを尊重し、同僚性を発揮し、高い目標に向かって粘り強く取り組む力」としてはどうか。

(2) その他

- ・「確かな人権意識と豊かな共感力」を、「豊かな共感力」とまとめ、「児童生徒や保護者の思いを共感的に感じ取る力」としてはどうか。
- ・「教育のプロ」という言葉は内容が分かりにくい。「教師としての高度な知識や技能」でよいのではないか。

長野県教育の理念と教員のミッション及び教員に求められる資質能力

学校からの主な意見・要望

<小学校 370校 中学校 187校 高等学校 86校 特別支援学校 19校が回答>

※ () 内は回答の概数 A…30校以上 B…20校以上30校未満 C…10校以上20校未満
10校未満の意見については割愛

1 長野県教育の理念

(1) 「めざす人間像」について

・「社会的に自立した人間」について具体的な説明がほしい。 (B)

(2) 「内なる力を引き出す」について

・「内なる力」とはどのような力か、明確にしたい。 (B)

・「引き出す」という言葉を変更してはどうか。 (B)

(「伸ばす」、「高める」、「内なる力を存分に発揮する」等)

(3) 「地域と共に歩む学校」について

・「地域」に説明がほしい。 (A)

(「地域」の中には保護者や家庭も含まれているのか明確にしたい。

「地域」だけでなく、家庭を入れ、「家庭や地域と共に～」としたい。 等)

・説明文の「学校に距離感を抱いている～」の文章は、その根拠がはっきりしない。削除してもよいのではないかと。 (C)

(4) その他

・説明文が「～きた」「～であった」と過去形であるが、現在も同じ思いであるため、「～きている」「～である」とした方がよいのではないかと。 (C)

2 教員のミッション

(1) 「教員のミッション」について

・「ミッション」という言葉には、違和感がある。 (A)

(ゲーム的、戦闘的である。また、宗教的な意味合いも伴っている。

「ミッション」といった片仮名でなく、「使命」や「任務」としたらどうか。等)

(2) 「守り 育み 伸ばす」について

・具体的な内容について示す必要があるのではないかと。 (B)

(「守り」の中には、いじめをはじめとする精神的な苦痛から子どもを守ることも含まれていると分かる表現をしたい。

「育む」のは、夢ばかりでなく、学力や規範、道徳心等、社会生活を営む上で基礎・基本となる力であると考え。 等)

・「学力の向上」を視点とした表現が必要ではないかと。 (C)

(3) 「学び続ける」について

- ・説明文の「人間力」について、説明がもう少し欲しい。 (C)

(4) 「深雪せる～」の林先生の句について

- ・この思いを大事にしていきたいという意見 (A)
- ・ここでの位置付けに疑問を感じるという意見 (A)
(「守り 育み 伸ばす」「学び続ける」のミッションと具体的にどのようなようにつながるのか。ミッションの文中に、情緒的なものを位置付けてよいものか疑問を感じる。年輩の先生方にはよいが、若い先生方にはピンとこないものがある。 等)

3 教員に求められる資質能力

(1) それぞれの資質能力について

- ・教育には「深い人間愛」が不可欠。教育愛・人間愛を踏まえた文言を入れたい。 (C)
- ・「同僚性」「互いに学び合う」等の言葉を位置付けたらどうか。 (A)

(2) 全体を通して

- ・5つの資質能力の順序性について (A)
(順序性があるとすれば、1、2、5、4、3ではないか。1、2、5は教員の内面的な資質であり、3、4は他とかかわる資質であると捉える。
「教育のプロ」として～」が5番目に位置付けられているが、もっと高い位置が適当なのではないか。
- ・「教員に求められる」という表現について (C)
(「教員に求めたい」にしたい。我々教員は、こうしたことを常に目指しているが、完璧とはいかない。また、上からの押しつけではなく、教員自らが目指すものとしたい。
「教員として高めていきたい資質能力」の方が適当ではないか。)

年度

研修記録シート

1 今年度の自己研鑽の目標

--

2 研修の予定と実施記録

資質能力	研修の予定	研修の実施記録
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解		
B 確かな人権意識と共感力		
C 地域社会と連携・協働する力		
D 目標実現に向け、柔軟に対応する力		
E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能		

3 研修の成果と課題

--

4 学校長からのアドバイス

--